住友商事マシネックス、スタートアップLiNKXとプロダクトディスカバリー提供開始
～プロトタイプのユーザテストから始めるアジャイル開発～

2021年4月21日

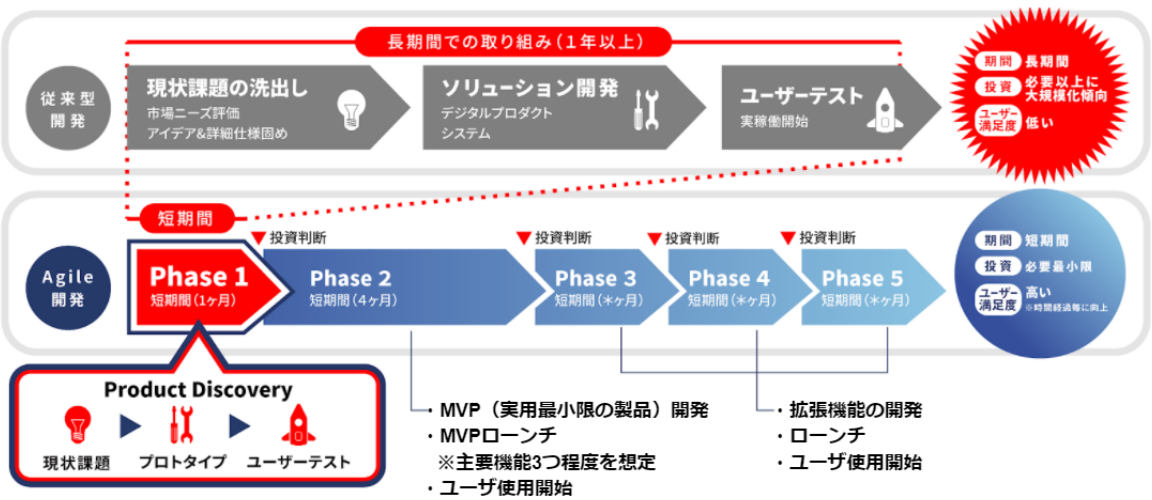
住友商事マシネックス株式会社（本社：東京都千代田区/代表取締役社長：佐橋 明三）とリンクス株式会社（本社：東京都港区/代表取締役社長：オサムニア モハメッド）は、現在、多くの伝統的企業が挑戦し混迷しているDXの取り組みに対し、住友商事マシネックスが自ら体験した、スタートアップによるアジャイル手法のデジタルプロダクト開発を、国内企業向けに提供してまいります。

経済産業省 DXレポート2（※1）によると、日本企業の95%の企業がDXに取り組んでいない、または取り組み始めた段階であり、50%以上の企業がデジタル化に関する取り組みがあまり進んでいないと報告されています。また、経済産業省デジタルトランスフォーメーションの加速に向けた研究会WG1全体報告書（※2）によると、DXを外部に“丸投げ”するのではなく、自分事として捉え、自身でコントロールして推進すべし、と報告されております。

このような中で住友商事マシネックスは、ITスタートアップリンクスが提唱する、自社内での内製的な課題解決力を高めるアジャイル開発体制を構築し、デジタルプロダクト開発を進めることが可能な「プロダクトディスカバリー」サービスを自ら体験し、この体験の有用な効果を基に、同サービスを幅広い業界の取引先さまへ展開してまいります。

『プロダクトディスカバリー概要』

- 顧客プロジェクトメンバーとリンクスプロダクトチーム（プロダクトコンサルタント、UI/UXデザイナー、ソフトウェアアーキテクト等）で“One Team”を構成し、1ヶ月という期間で主体的な課題整理、分析、優先順位付けを経て、プロトタイプを製作。更に、ユーザテスト（実証）までを実施し、ユーザーが求めるプロダクトを発見する。
- 早期に発見したユーザーテスト（実証）に基づく本来開発するべきプロダクトを、顧客自身が理解し、次のステップ（デリバリー）に向けたアジャイル手法によるデジタルプロダクト開発フェーズに進む準備が整う。



（※1）2020年12月28日 経済産業省HP公開資料 DXレポート2
（※2）2020年12月28日 経済産業省HP公開資料 デジタルトランスフォーメーションの加速に向けた研究会　WG1 全体報告書

◆住友商事マシネックス 会社概要

会社名	：住友商事マシネックス株式会社
代表取締役社長	：佐橋　明三
所在地	：東京都千代田区一ツ橋1-2-2 住友商事竹橋ビル10・11階
URL	：http://www.smx.co.jp/

◆リンクス 会社概要

会社名	：リンクス株式会社
代表取締役社長	：オサムニア　モハメッド
所在地	：東京都港区西新橋2-19-5 カザマビル5F
URL	：https://www.linkx.dev/

◆お問い合わせ先

住友商事マシネックス株式会社
窓口： 高松（kyota.takamatsu@smx.co.jp）

◆補足資料

次ページ以降をご参照下さい。

SMX & リンクス プレスリリース 補足資料

2021年4月21日

住友商事マシネックス株式会社
ビジネスイノベーション推進室

Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.

01. リンクス 事例から得た教訓

テクノロジーに関する投資と失敗の事例は数多く存在します
リンクスは、「世の中の失敗事例からの教訓」と「リンクス事例からの教訓」から学びました

世の中の失敗事例からの教訓

- 事業の一部としてのITプロジェクトへの主体性の欠如により、
  高いベンダー依存度と難解なベンダーマネジメントに非効率を抱え込む

リンクス事例からの教訓

- ウォータフォール型で創るべきことと、
  ユーザテストで創るべきものの線引きが必要
- ユーザが求める物を見つけることを見つけるには、
  ユーザの巻込み方を事前に練る必要がある

Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.

02. 旧来型SIerモデルの課題

課題①：市場投入までの時間と費用（膨大な時間と費用）
プロダクト・サービスを市場に投入するにあたって、構想・仕様詰めに多くの時間とお金を費やし、初期の段階で必要な問題実証やユーザテストを行わずにプロジェクトを進める

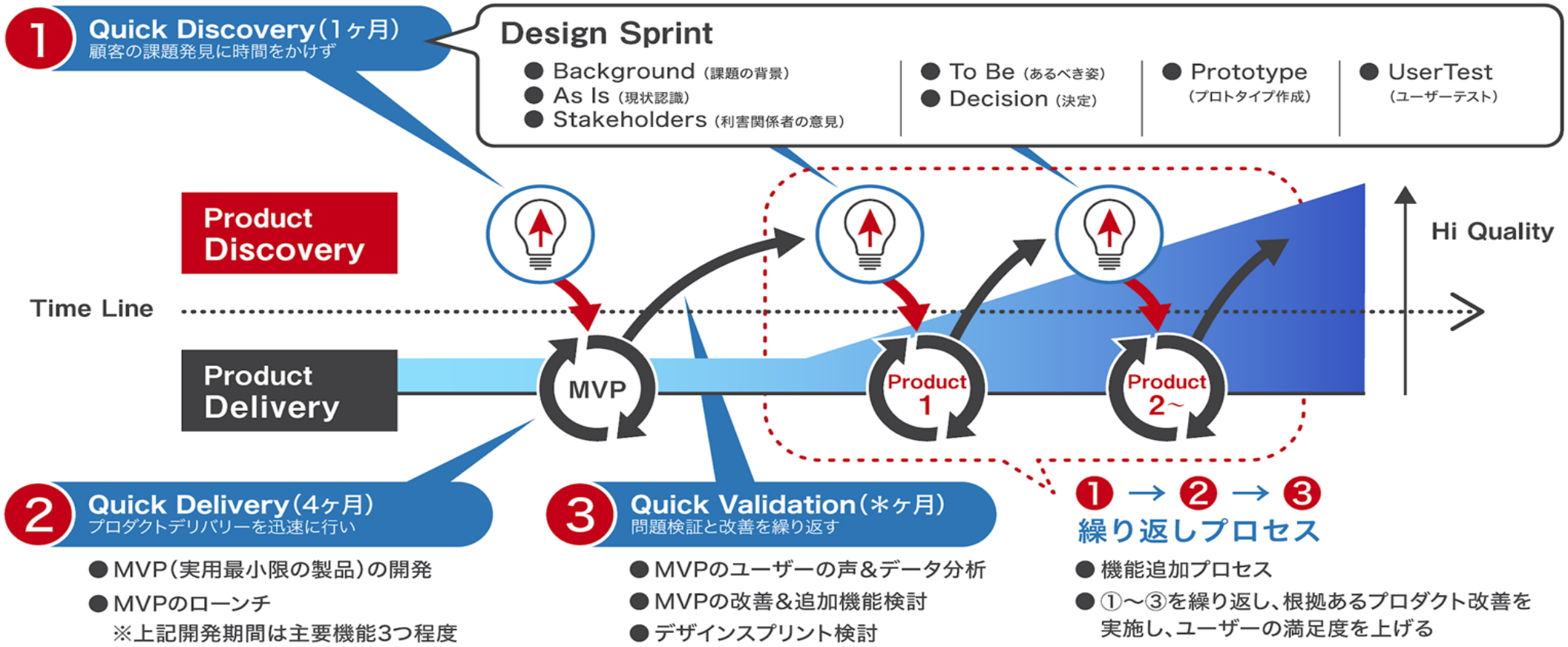
課題②：市場との距離感（タイムラグ）
プロダクト・サービスが市場の要求スピードに追従できず、
自社のプロダクト・サービスが競争力を失う

課題③：品質向上プロセス（品質改善）
仕様通りにプロダクトが完成したら保守運用へ移り、ユーザの声に応えながら
プロダクト・サービスの品質改善を継続的に繰り返すプロセスが存在しない

リアルタイム性が要求される現在の市場では、
これまでのSIerモデルでは通用しなくなっており、
現在のやり方を継続すると
日本企業はこれから急激に競争力を失っていくことになる

Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.

短期間で、適切なプロダクトを発見し、ローンチするため、1回のDiscovery(DesignSprint) を1ヶ月、Delivery(MVP)を標準4ヶ月とし、繰返すことで品質を向上します。



- MVP(実用最小限の製品)の開発
- MVPのローンチ
  ※上記開発期間は主要機能3つ程度

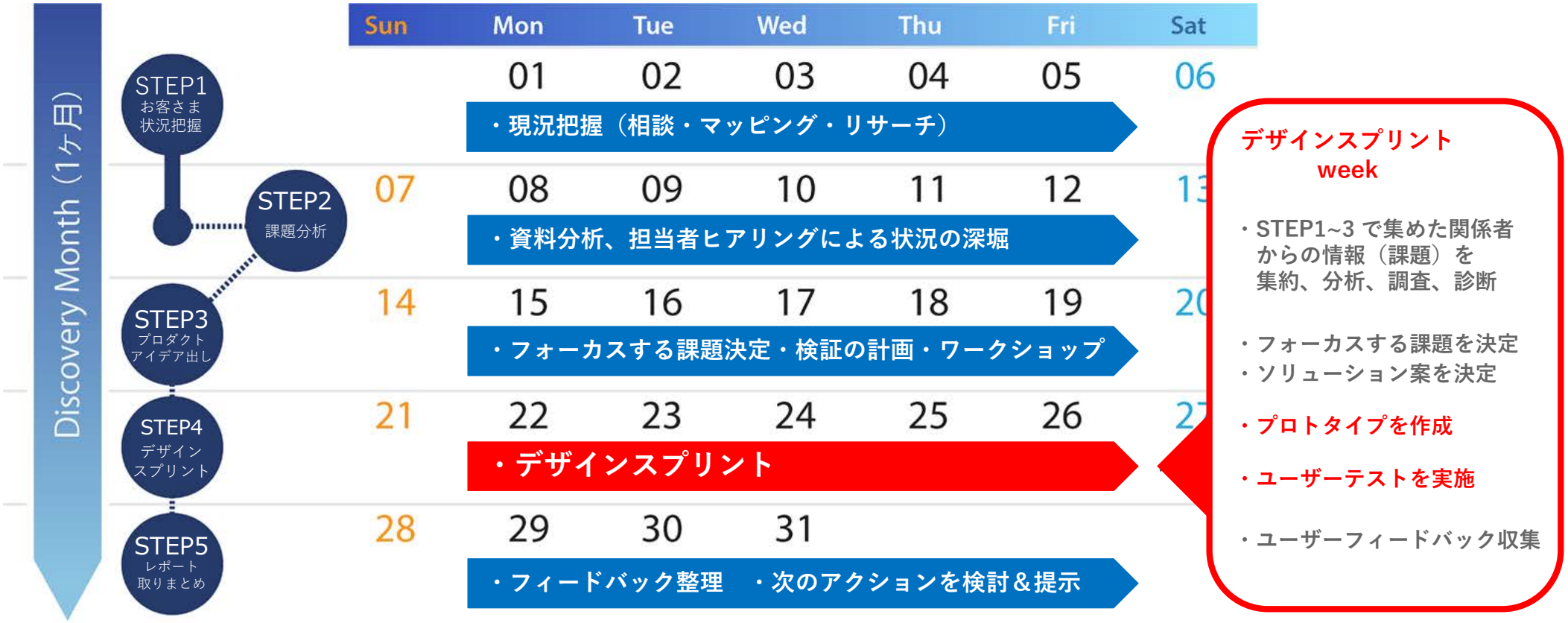
- MVPのユーザーの声&データ分析
- MVPの改善&追加機能検討
- デザインスプリント検討

- 機能追加プロセス
- ①～③を繰り返し、根拠あるプロダクト改善を実施し、ユーザーの満足度を上げる

Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.

04. プロダクトディスカバリー ～1ヶ月の流れ～

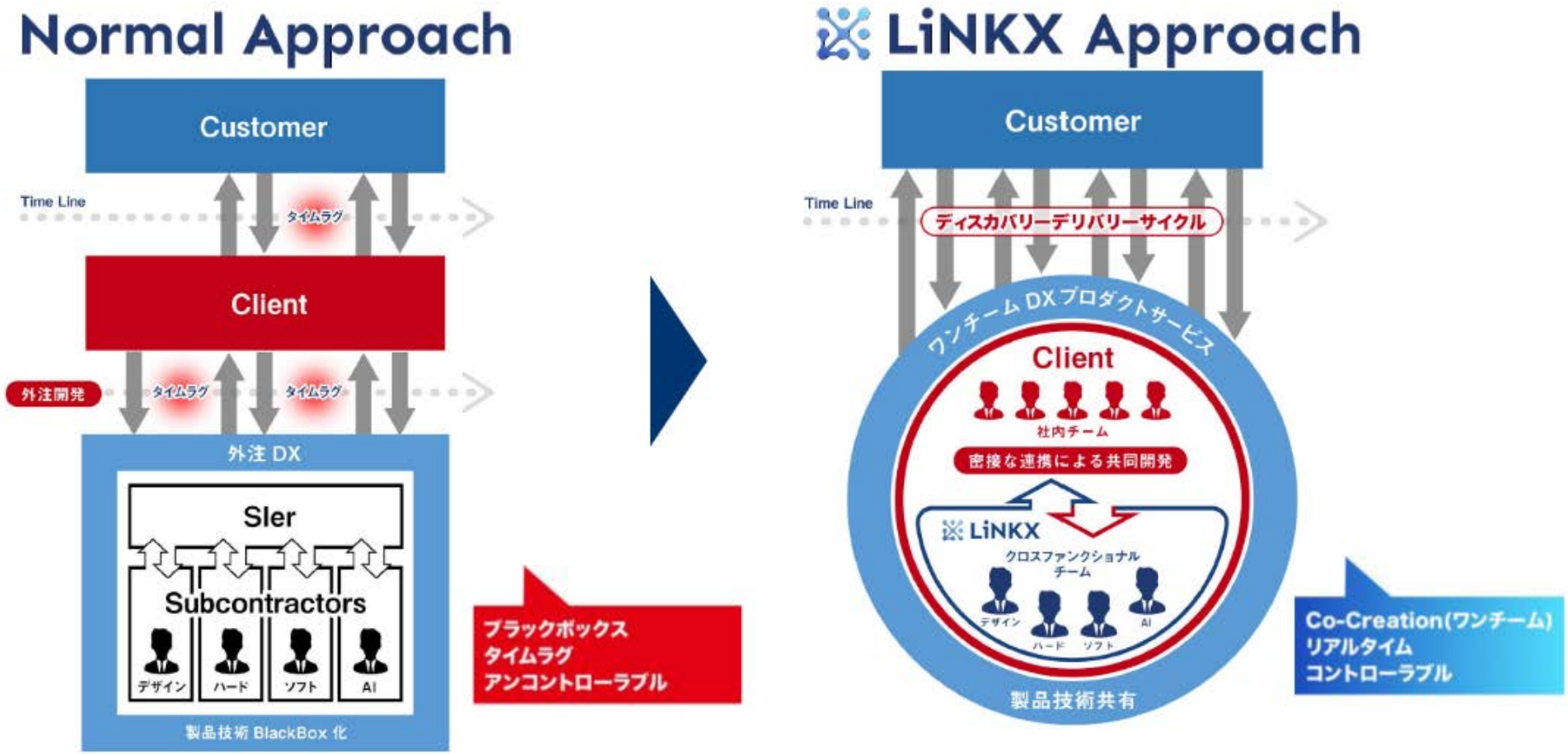
1ヶ月のDiscovery Monthでは、以下のスケジュールを想定して実施していきます。
特にデザインスプリント（1週間）はほぼフルタイムでのコミットメントが必要になります。



Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.

05. リンクス “One Team” Approach

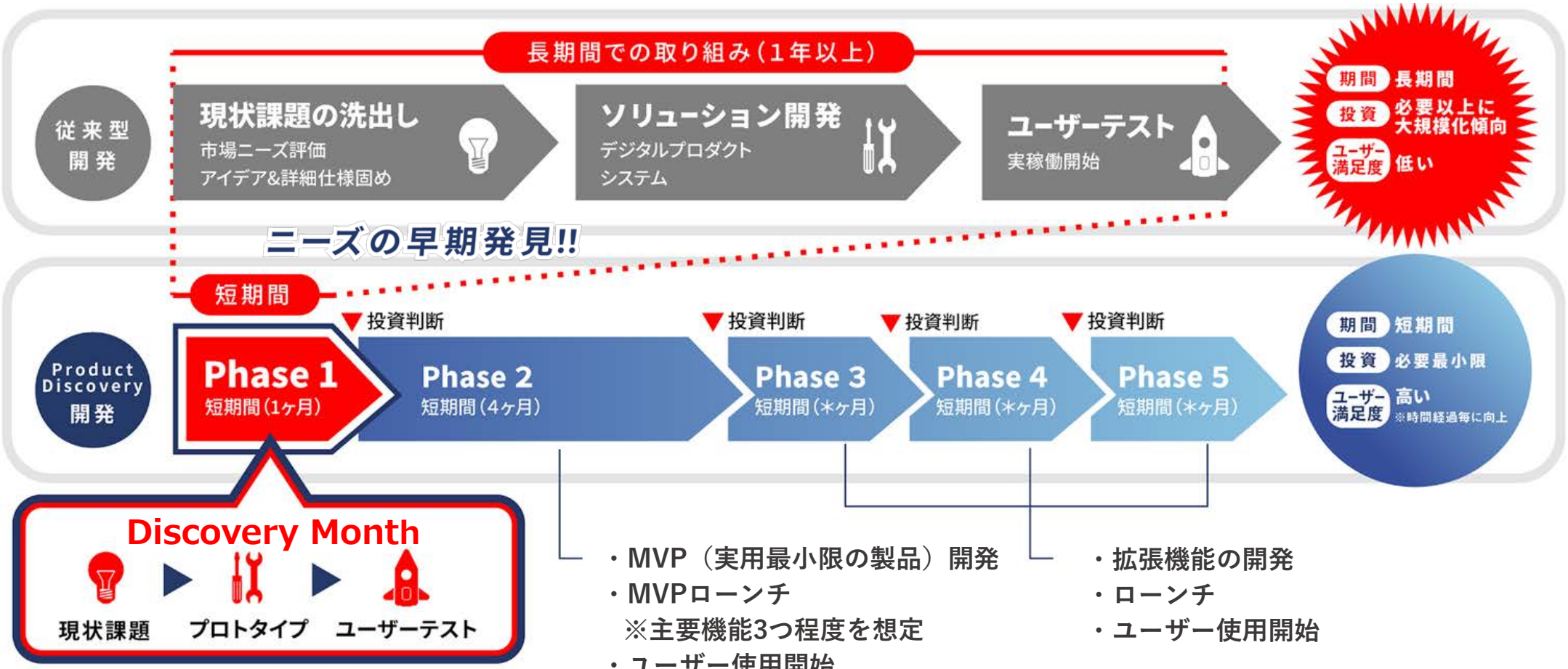
リンクスはお客さまとワンチームでプロダクトを創り、お客さまの内製的な課題解決力を高めるとともに、お客さま主体でのアジャイル開発体制の構築を実現します！



Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.

06. なぜプロダクトディスカバリーが有効か？

短期間にプロトタイプを使り、ユーザテストまで行い、ユーザニーズを早期に発見。
時間と資金を無駄にせず、ソリューション（デジタルプロダクト、システム）構築がスタート可能！



Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.

Fin.

Copyright © 2021 Sumitomo Shoji Machinex Co., Ltd. All Rights Reserved.